

都市再生整備計画(第4回変更)

鹿教湯地区

長野県 上田市(旧丸子町)

平成21年3月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	上田市(旧丸子町)	地区名	鹿教湯地区	面積	28.4 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 20 年度				

### 目標

- 湯福の里・鹿教湯ときめき交流スクエア整備事業 ~ 健康と文化の里としての環境整備 ~
- ・車優先から人優先の温泉郷
  - ・新たなふれあいづくり、交流づくり
  - ・訪れる人々が楽しめる回遊性のある温泉郷
  - ・温泉郷での快適な生活環境

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

湯治保養地として古くから親しまれてきた丸子温泉郷は、これまでの歴史と伝統を継承するとともに、新たな時代の新たな要求に耐えうる温泉地として、利用者の期待に答えている。丸子温泉郷は、昭和31年の国民保養温泉地指定(当時厚生省)、昭和56年の国民保健温泉地指定(環境庁)を足がかりに各種施設整備を行ってきた。さらに平成3年には、鹿教湯温泉センター「クアハウスかけゆ」が厚生省より健康増進施設に認定されており、温泉郷の保養・保健・療養的機能はますます高まってきた。平成8年には、開湯800年を迎え、さまざまなイベントが開催され、里山歩き(健康ウォーキング)や健康まつりは自然環境を活用した温泉地づくりの取り組みとして継続して行われている。

また、鹿教湯温泉は鹿教湯病院と旅館組合を中心に温泉全体で「集団保養」を進めている。

平成10年には高齢者や障害者を含むすべての人が安心して快適に楽しめる社会環境づくりに貢献している地域として鹿教湯温泉旅館組合と鹿教湯温泉健康保養協会に対して「人にやさしい地域の宿づくり賞」の厚生大臣賞を受賞した。平成11年に開講した鹿教湯温泉健康学校は、病院や旅館、地域が「学校」となり、健康について楽しく学ぶ取り組みは利用者に好評で、年間10,000人ほどが受講し、魅力ある温泉地づくりに貢献している。平成14年度から平成16年度の3か年では、「バリアフリーモデル地区」として長野県より地域指定を受け基盤整備等を実施してきた。

しかしながら、平成4年まで横ばい、もしくは微増傾向にあった温泉郷の利用者数は、平成5年を境に減少傾向にある。丸子温泉郷の停滞状況を乗り越えるために、地元観光協会や旅館組合をはじめ、各種団体との連携強化による宣伝活動と観光振興イベントを積極的に展開している。

#### 課題

- ・既存の公民館は、太鼓や大正琴、ピアノ教室など利用頻度の高い公民館であるが、昭和35年当時の集会所で老朽化が激しく、騒音防止施設でないため、その利用も制限されている。また、昭和63年に隣接の国民宿舎が移転し、以降15年にわたり跡地の利用が模索されてきている。こうしたことから、当該地域の文化伝統、観光の交流拠点の整備を図り地元住民と観光客との交流を促進する。
- ・平成14年度からバリアフリーのモデル地区として、市道鹿教湯5号線の歩道の改良や点字ブロックの設置、クアハウスの入口の段差解消などを行ってきたが、散策道路などの整備やクアハウス内のバリアフリー化まで整備するに至っていない状況である。そこで鹿教湯2号線の歩道整備やクアハウス内の整備を図り誰もが利用しやすい、人にやさしい施設整備を図る。
- ・施設整備や基盤整備を進める中で地域内道路の一方通行化や高齢者や障害者が移動しやすい手段の検討も必要となり、こうした取り組みを検討するための社会実験を行う。また、人や環境にやさしい地域づくりを行うために、景観の保全に取り組むことも必要であり、統一感の取れた落ち着いた温泉地となるように住民合意を得て今後の地域づくりを進めるために景観形成の住民協定を締結する。

#### 将来ビジョン(中長期)

- ・地区内の主要道路整備や交通システムの計画を段階的に進めることで、歩行者を大切にしたい道づくりを進める。
- ・旧鹿月荘跡地を「憩いと集い」の拠点として整備する。
- ・老朽化した健康センター「クアハウス」のバリアフリー化を図る。
- ・自然を満喫できる散策道のネットワーク化を図る。
- ・建物のデザインや外構の修景に関する景観指針を立て自然と調和した街並みを整備する。

旧第5次丸子町振興計画後期基本計画では、

- ・健康と文化の里としての環境整備、開発、保全として
- 「丸子温泉郷の観光交流施設の充実・整備」や「観光客や中長期滞在客との交流促進」、「街並み景観形成」が記載されており、湯治場としての雰囲気づくりやクアハウスのバリアフリー化、地域住民や観光客、中長期滞在客が散策し、楽しく交流できる場所の整備を進めます。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度		
交流センター利用者数	人	生涯学習活動や体験教室などに参加する者の人数	交流センターを整備することにより地元住民の利用ばかりか、観光客の利用も促進され、交流人口の拡大が図れる。	年間6,100人 <small>(地元住民の既存施設の利用状況)</small>	H15	年間75,300人	H20
クアハウスの利用者数	人	クアハウスを利用した者の人数	クアハウスの改修により誰もが利用しやすい施設となり、利用者が増えることが期待される。	年間26,000人	H15	年間30,000人	H20
宿泊比率	%	丸子温泉郷の延べ利用客全体に占める宿泊客数	交流センターやクアハウスの改修により温泉地の魅力が増し温泉地を訪れ宿泊客が増えることが期待される。	82.9%	H15	90%	H20
宿泊客の温泉地満足度	%	丸子温泉郷に対して満足と回答した者の割合	当該地域のバリアフリー化や遊歩道の整備により利用者が不便と感じることなく快適な温泉地の利用が図られる。	60% <small>(電源地域振興指導事業より)</small>	H16	80%	H20

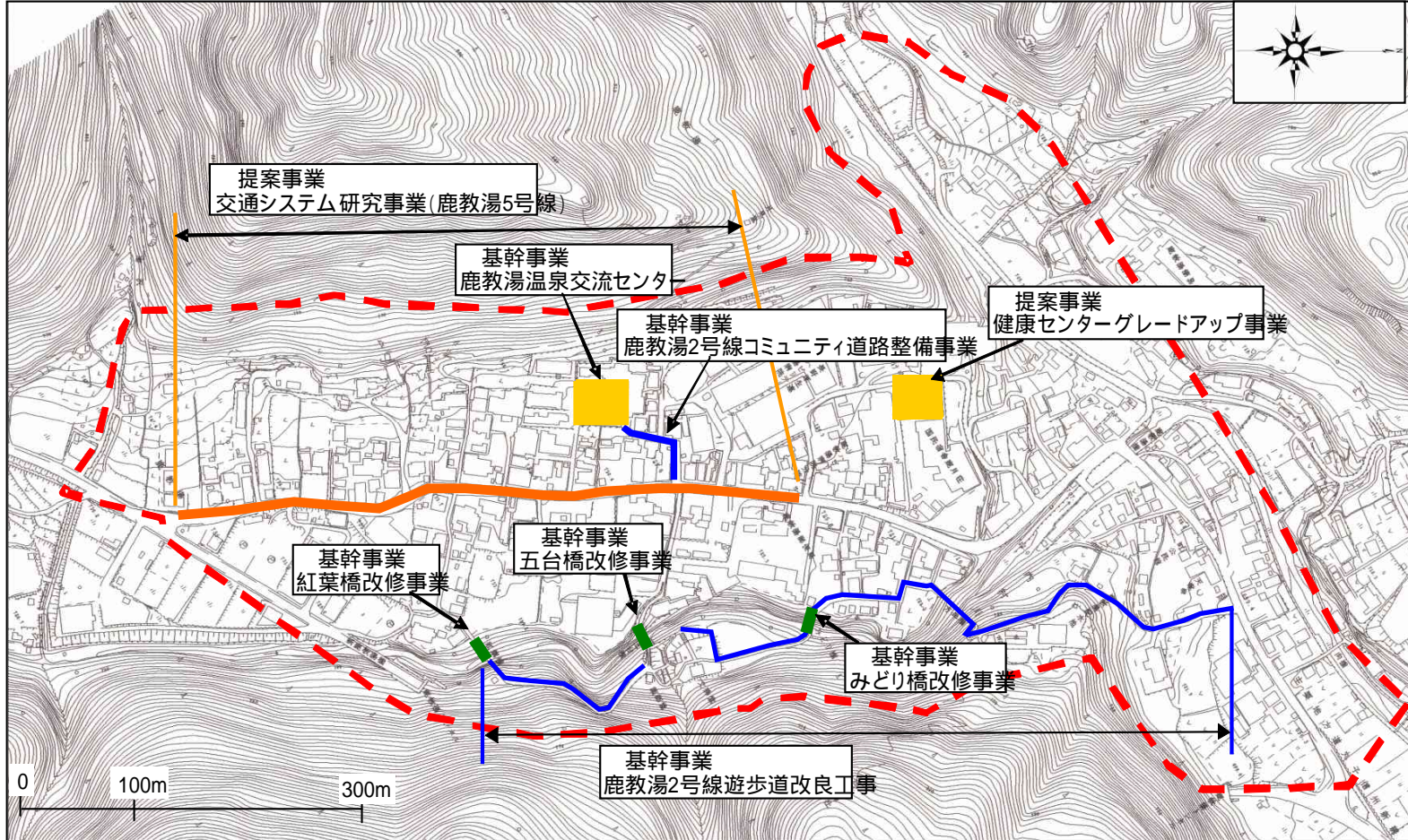
## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・旧鹿月荘跡地を有効活用するため、当該施設を解体し、新たに公民館機能を併せ持つ交流センターを整備することで、地元住民と観光客との交流が生まれる。また、文化伝承施設として丸子太鼓保存会の練習場や文化伝統行事の情報拠点として活用される。</p>	<p>・鹿教湯温泉交流センター整備事業(基幹事業)</p>
<p>・健康センター「ケアハウス」のバリアフリー化や遊歩道の整備などにより誰もが温泉地の魅力を体感できるとともに、温泉を利用した健康づくりが可能となる。</p>	<p>・市道鹿教湯2号線遊歩道改良工事(基幹事業)          ・市道鹿教湯2号線コミュニティ道路整備事業(基幹事業)          ・五台橋改修事業(基幹事業)          ・みどり橋改修事業(基幹事業)          ・紅葉橋改修事業(基幹事業)          ・健康センターグレードアップ事業(提案事業)</p>
<p>・温泉地内の交通システムを検討し、歩行者が安心して歩ける温泉地づくりを進めるとともに、温泉地の統一感を高めるために景観に配慮した落ち着いた温泉地づくりを進める。</p>	<p>・交通システム研究事業(提案事業)          ・景観形成事業(提案事業)</p>
<p>その他</p> <p>・平成8年に「鹿教湯温泉湯福の里友の会」を発足。健康活動をしながらボランティアをしようという地域の会が結成されている。五台橋通り抜け茶会、里山歩きなどの行事やイベントに地元の住民が係わり、事業終了後も引き続き当該事業の目標に合致した取り組みが住民により実施される。</p> <p>・当該地域は、平成14年度から平成16年度にかけて「バリアフリーモデル地区」に指定されている。事業の実施に当たっては、地元住民によるまちづくり実行委員会が組織され、住民と行政が協働した事業の実施が図られている。</p> <p>・昨今の合併論議の中で、より自由で自発的な「住民自治」の創造の場として、当該地域の住民が中心となり「西内・平井振興会(仮称)」の設立が検討されており、本市において、住民自治のモデル地域と期待されている。</p> <p>・交流センターの維持管理については、地元旅館組合や観光協会が指定管理者制度により管理運営される予定である。</p>	



# 鹿教湯地区(長野県上田市)整備方針概要図

目 標	・車優先から人優先の温泉郷 ・新たなふれあいづくり、交流づくり ・訪れる人々が楽しめる回遊性のある温泉郷 ・温泉郷の快適な生活環境づくり	代表的な指標	交流センターの利用者数(人/年)	H15年度) 6,100人	75,300人(H20年度)
			宿泊率 (%)	(H15年度) 82.9%	90.0%(H20年度)
			宿泊客の温泉地満足度 (%)	(H16年度) 60.0%	80.0%(H20年度)



基幹事業		提案事業
鹿教湯温泉交流センター整備事業	五台橋改修事業	健康センターグレードアップ事業
市道鹿教湯2号線歩道改良工事	みどり橋改修事業	交通システム研究事業
市道鹿教湯2号線コミュニティ道路整備事業	紅葉橋改修事業	景観形成事業

## まちづくり交付金の客観的評価基準の確認シート

都道府県名	市町村名	地区名
長野県	上田市	鹿教湯地区

## I. 目標の妥当性

①都市再生基本方針との適合等	チェック欄
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。 (該当するものに○) 1. 中心市街地活性化 2. 防災 3. 少子高齢化 4. 人口定着 ⑤. 観光・交流 6. アメニティ 7. 交通利便性 8. 都市活力 ⑨. 地域コミュニティ 10. その他	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。 (該当するものに○) ①. 市町村総合計画 2. 都道府県長期計画 3. 都市再生緊急整備地域 4. 構造改革特別区域 5. 地域再生計画 6. 全国都市再生モデル調査 7. 被災市街地 8. 中心市街地活性化計画 9. その他(地域防災計画)	○
②地域の課題への対応	チェック欄
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標を設定している。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置付けが高い。	○

## II. 計画の効果・効率性

③目標と事業内容の整合性等	チェック欄
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用やハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	チェック欄
1) 十分な事業効果が確認されている	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○

## III. 計画の実現可能性

⑤地元の熱意	チェック欄
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑦円滑な事業執行の環境	チェック欄
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理（モニタリング）を実施する予定である。	○
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○

## 【記入要領】

- ・都市再生整備計画の記載内容が、確認シートの各項目に該当する場合は、チェック欄に○を記入する。
- ・(該当するものに○)の項目は、都市再生整備計画の記載内容が該当する項目の番号を○で囲む。